

授 業 科目名	【 G 】 情報教育法 I (2023年度生以前カリキュラム) 【 G・H 】 情報科指導法 I (2024年度生以降カリキュラム)	区 分	開講年次	【 G 】 2 【 G・H 】 3	単位数	【 G 】 2 【 G・H 】 2		
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための必修科目 (-----情報) 【 G・H 】 教員の免許状取得のための必修科目 (-----情報)						
施行規則に定める科目区分又は事項等		各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)						
サブ タイトル	高等学校教科「情報」に関する知識・技能・態度・指導法を学ぶ			担当者	濱野 和人			
授業概要	【概要】	本授業は、教科「情報」の教員免許を取得するための教職必修科目である。 「情報科指導法 I (情報教育法 I)」、「情報科指導法 II (情報教育法 II)」を通じて、情報科教員にとって必要とされる知識・技能や態度を身に付ける。また、情報科教員として身に付けておくべき指導方法を修得する。特に「情報科指導法 I (情報教育法 I)」では「情報 I」の授業内容を中心に展開していく。						
	【到達目標】	情報科教員を目指し、教科「情報」の授業を適切に実施するために必要な次の①～⑤を身に付け、情報社会で活躍できる人材を育成するための基礎的能力を修得する。 ①学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体像が理解できる ②教科「情報」の指導上の具体的留意事項について理解できる ③生徒の資質・能力育成の視点を踏まえた授業設計(学習指導案の作成)および模擬授業ができる ④教科「情報」の学習評価の理解に基づいた授業評価および改善ができる ⑤他分野・他教科の内容も取り入れた教育実践を行うことにより人間的成長を促すことができる						
履修条件	①4年次に教育実習に行く予定であること ②「情報科指導法 II (情報教育法 II)」の単位取得済みもしくは同時履修(連続履修)をすること ③初回授業から出席し、原則遅刻・欠席をせず、明るく能動的であり、コミュニケーションが取れること ④模擬授業の際にPCが必要となる場合があるので持参できること、またビジネスメールが掛けること(書けない場合は書けるようにしておくこと) ※その他詳細は授業時に説明する							
アクティブラー ニングの方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【○】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	情報科指導法 II (情報教育法 II)、教育実習							
教科書	①文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』開隆館出版 ②萩谷昌己ほか(2022)『最新情報I』実教出版 ③萩谷昌己ほか(2023)『情報 II』実教出版							
参考書	①鹿野利春ほか(2022)『情報科教育法:これからの情報科教育』実教出版 ②萩谷昌己ほか(2022)『図説情報 I』実教出版 ③萩谷昌己ほか(2022)『高校情報 I Python』実教出版 ④萩谷昌己ほか(2022)『高校情報 I JavaScript』実教出版							
評価方法	授業への参加意欲・態度・提出物(学習指導案等)の状況(50%)と模擬授業(50%)による配点を基準とし総合的に評価する。							
フィードバック 方法	授業時の場合:原則対面による応答・対応 授業外にオンラインツールを使用した場合:原則次回授業時に応答・対応(内容によっては即時個別に応答・対応)							
評価基準	授業内容について理解しており、適切に表現できている者には、その程度に応じて「S」「A」「B」「C」のいずれかを付する。授業内容について理解しておらず、適切に表現できていない者には「D」「E」のいずれかを付する。また、授業に向かう姿勢が良好の場合でも3回以上欠席した者は自動的に「F」を付する。							

授 業 科目名	【 G 】 情報教育法 I （2023年度生以前カリキュラム） 【 G ・ H 】 情報科指導法 I （2024年度生以降カリキュラム）	区 分	開講年次	【 G 】 2 【 G ・ H 】 3	単位数	【 G 】 2 【 G ・ H 】 2
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、情報科指導法(情報教育法)とはなにか 予習： 情報科教員を目指す理由(「情報」教員免許の取得理由)を説明できるようにする。 復習： 情報科指導法(情報教育法)とは何かについてまとめる。					
2	高等学校における情報教育の変遷と現状 予習： 情報教育の変遷と現状について学習指導要領を熟読する。 復習： 授業で取り上げた内容についてポイントを整理する。					
3	学習指導要領における共通教科「情報」の全体像 予習： 共通教科「情報」の全体像について学習指導要領を熟読する。 復習： 授業で取り上げた内容についてポイントを整理する。					
4	学習指導要領における共通教科「情報」(情報 I)の目標と内容 予習： 共通教科「情報」(情報 I)の目標と内容について学習指導要領を熟読する。 復習： 授業で取り上げた内容についてポイントを整理する。					
5	年間指導計画と学習指導案、「情報 I 」の年間指導計画作成①(標準授業時数と単元) 予習： 年間指導計画とは何か調べてまとめる。 復習： 授業で取り上げた内容についてポイントを整理する。					
6	「情報 I 」の年間指導計画作成②(単元別単位時間の検討) 予習： 単元別単位時間の割り振り(原案)を考える。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ年間指導計画を完成させる。					
7	「情報 I 」学習指導案(座学ベース)の作成(単元「プレゼンテーションの意義と重要性」「情報のデジタル化」) 予習： 授業で取り上げる内容について教科書を熟読する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ学習指導案をブラッシュアップさせる。					
8	「情報 I 」学習指導案(座学ベース)の修正と授業資料の作成(単元「プレゼンテーションの意義と重要性」「情報のデジタル化」) 予習： 生徒に何を学ばせたいのかをイメージしながら模擬授業の展開を考える。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ学習指導案と授業資料を完成させる。					
9	「情報 I 」模擬授業(座学ベース)①(単元「プレゼンテーションの意義と重要性」) 予習： 作成した学習指導案を元に教材等を準備し練習する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ指導内容をブラッシュアップさせる。					
10	「情報 I 」模擬授業(座学ベース)②(単元「情報のデジタル化」) 予習： 作成した学習指導案を元に教材等を準備し練習する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ指導内容をブラッシュアップさせる。					
11	「情報 I 」学習指導案(実習ベース)の作成(単元「データ分析と表計算」「データの可視化」) 予習： 授業で取り上げる内容について教科書を熟読する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ学習指導案をブラッシュアップさせる。					
12	「情報 I 」学習指導案(実習ベース)の修正と授業資料の作成(単元「データ分析と表計算」「データの可視化」) 予習： 生徒に何を学ばせたいのかをイメージしながら模擬授業の展開を考える。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ学習指導案と授業資料を完成させる。					
13	「情報 I 」模擬授業(実習ベース)①(単元「データ分析と表計算」) 予習： 作成した学習指導案を元に教材等を準備し練習する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ指導内容をブラッシュアップさせる。					
14	「情報 I 」模擬授業(実習ベース)②(単元「データの可視化」) 予習： 作成した学習指導案を元に教材等を準備し練習する。 復習： 授業での指摘事項を踏まえ指導内容をブラッシュアップさせる。					
15	大学入学共通テストにみる「情報 I 」、情報科指導法 I (情報教育法 I)のまとめ 予習： 「情報 I 」を通じてどんな生徒を育てたいのか考えをまとめる。 復習： 共通テスト「情報 I 」出題問題を指導する場合の模擬授業の展開を考える。					
その他	毎回の授業につき、最低予習2時間、復習2時間、合計4時間以上の学習時間が必要となる。					